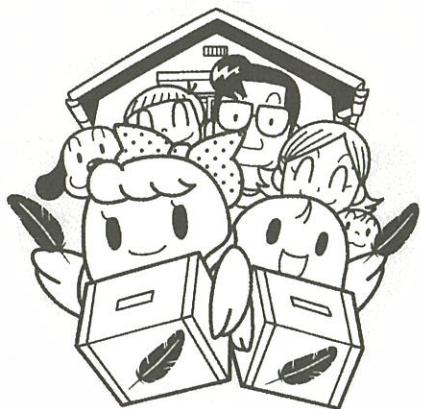


酒田市社会福祉協議会会報 (全戸配布)

ふれあい 第7号

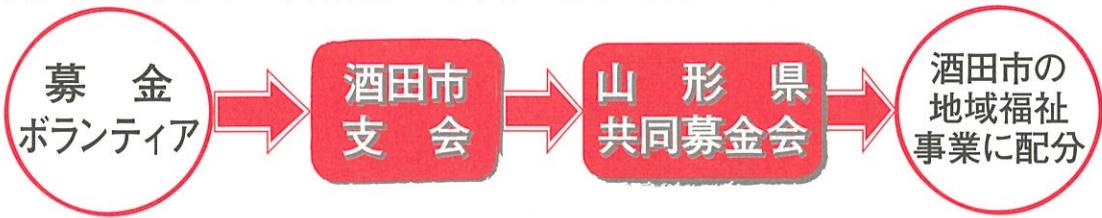


この会報紙は、赤い羽根共同募金の配分金で発行しています。



- 福祉のまちづくりをめざして
— 赤い羽根共同募金のお願い — 2
- 赤い羽根共同募金 今昔 2
- みなさまに支えられて 新・草の根事業 4~5
- 地域福祉ニュース 6
- 平成18年度社会福祉協議会決算報告 7
- イベント情報・ありがとう善意の輪・
生活支援員の募集・コラムふれあい 8

共同募金は各都道府県ごとに行われ、災害時などの例外を除き、寄付金は県内で使い道が決められています。



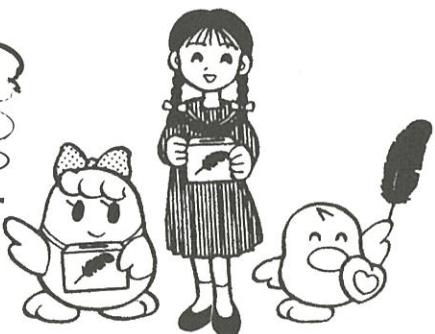
◎平成18年度赤い羽根共同募金実績 15,157,622円	
(収入内訳)	
①戸別募金	10,537,060円
②法人募金	3,153,500円
③街頭募金	660,981円
④学校募金	74,423円
⑤その他の募金	731,658円
(支出内訳)	
A配分事業	7,737,000円
（民間社会福祉施設整備事業、小規模作業所支援事業、民間学童保育所援護事業、福祉の心推進事業等）	
B配分事業	7,420,622円
高齢者福祉活動費	638,000円
障がい(児)者福祉活動費	400,000円
児童青少年福祉活動費	850,000円
福祉育成援助活動費	5,412,622円
母子・父子福祉活動費	120,000円

○平成18年度歳末たすけあい募金配分状況 6,094,623円		
(収入内訳)		
①戸別募金	4,746,140円	
②学校募金	101,090円	
③その他の募金	1,247,393円	
(支出内訳)		
①準保護世帯		
4,315,500円	613世帯	
②子どもへの贈り物		
1,206,500円	615人	
③地域福祉活動費		
121,000円		
④事務諸費		133,873円
⑤地域福祉事業費（次年度）		317,750円

福祉のまちづくりをめざして —赤い羽根共同募金のお願い—



本年もご協力お願い
申し上げます。



▼一人暮らし高齢者電気保安点検事業
(酒田電気工事協同組合)



▼老人治療ボランティア事業
(酒田飽海鍼灸マッサージ師会)



10月1日～12月31日

▼身障者スポーツ大会





▲ 1947(昭22)共同募金ポスター

▼ 1947(昭22)
共同募金についての授業風景



(共同募金50周年史より)

急激な高齢社会対策として「高齢者保健福祉十カ年戦略」が策定され、在宅福祉の推進化が図られました。

共同募金は、在宅福祉事業の支援としてデイサービスの建設費、老人給食事業などに配分され、在宅福祉充実のため幅広く活用されました。

戦後復興期から高度経済成長へ
（昭和三十年代）

戦後の混乱期、復興期を経て、日本は飛躍的な高度経済成長をとげました。

この時期の共同募金は、民間社会福祉施設の増改築に役立てられました。

国際障がい者年を契機に
（昭和五十年代）

一九八一年は「完全参加と平等」をテーマとした国際障害者年でした。

これを機に、在宅の心身障がい者を支援するために共同募金が配分されました。（例えば無認可の小規模作業所）

幅広いニーズに応える・

第一回共同募金は、戦後間もない昭和二十二年に始まりました。戦禍による打撃で、多くの国民がどん底生活の時代でした。そんな時代に「国民たすけあい運動」として始まった共同募金は、戦災者、引揚者、生活困窮者等の救済のため大きな力となりました。

児童福祉の育成や障がい福祉の充実に
（昭和二十年代）
（昭和四十年代）

G.N.P.第二位と、経済発展した反面、働く女性が増え、保育所の設置がのび、児童福祉育成・障がい者福祉の充実に共同募金は活用されました。

地域福祉充実の時代へ
（三十一世紀～未来へ）

廃墟の中から「国民たすけあい運動」として始まった共同募金は、その時期、その時代のニーズにもつとも相応しい形で役立てられてきました。

共同募金開始から半世紀経った平成十二年六月に施行された「社会福祉法」では、あらたな時代の共同募金として、「地域福祉を推進するため」という目的が明記されました。また、災害時に都道府県の区域を越えた義援金の配分ができるよう改正されました。今後も「地域の福祉力」向上のため共同募金をさらに大きく発展させたいものです。

新・草の根事業の内容

- ① 見守りネットワーク支援事業
- ② 合同研修事業
- ③ ふれあい（老人）給食事業
- ④ 地域あんしん事業
- ⑤ ふれあい・うきうきサロン事業
- ⑥ 介護予防講座
- ⑦ その他地域に必要な事業

私たちをとりまく社会環境は厳しくなっています。わが国は少子高齢社会が進み、ついに人口減少社会へ至っています。その反面、福祉ニーズは子どもから高齢者まで広い範囲にわたり、複雑になっています。そこで、「サービス」と同時に住民相互のつなげあいを軸にした「地域の福祉力」がバランスよく整備されていることです。

みなさまに支えられて 新・草の根事業

酒田市社協では、おおむね小学校区単位に学区・地区社協を

住民の皆さんと協力して組織し、住民同士が支え合う「新・草の根事業」を進めております。

「新・草の根事業」は、小さい地域において住民が主体となる地域福祉活動で、合併前に各社協が実践してきた事業を基盤にして拡充し、平成十八年度から本格的に開始しました。

① 見守りネットワーク支援事業は、虚弱な一人暮らし高齢者等を地域で温かく見守り、孤独死などの悲惨な事故を未然に防ぐ事業です。（※五頁参考）また、近年では災害時における避難支援体制についても検討課題となっています。

② 合同研修事業は、学区・地区協ごとに「自治会長・区長」「民生委員児童委員」「福祉協力員」等が合同で地域内検討したり、情報交換を行うこと

で昨年度は六十八回開催いたしました。

③ ふれあい（老人）給食事業は、学区・地区社協がボランティアを募り手作りの給食を地域内の一人暮らし高齢者等に提供することで引きこもり防止、ふれあいの機会を図る事業です。昨年度は全地区で五三二六食を提供しました。

（関連記事六頁）

④ 地域あんしん事業は、学区・地区社協に人員を配置することで市社協との連絡と地域内での簡単な相談にも応ずる事業です。

⑤ ふれあい・サロン事業は、高齢者、障がい者、子育て中のお母さんなど閉じこもりがちな人が気軽に身近な場所（自治会館等）に集まり、楽しいひと時と仲間づくりを行う事業です。昨年度は、六九五回開設し、延べ一万八千三百九十九人の方に参加いただ



▲サロン事業

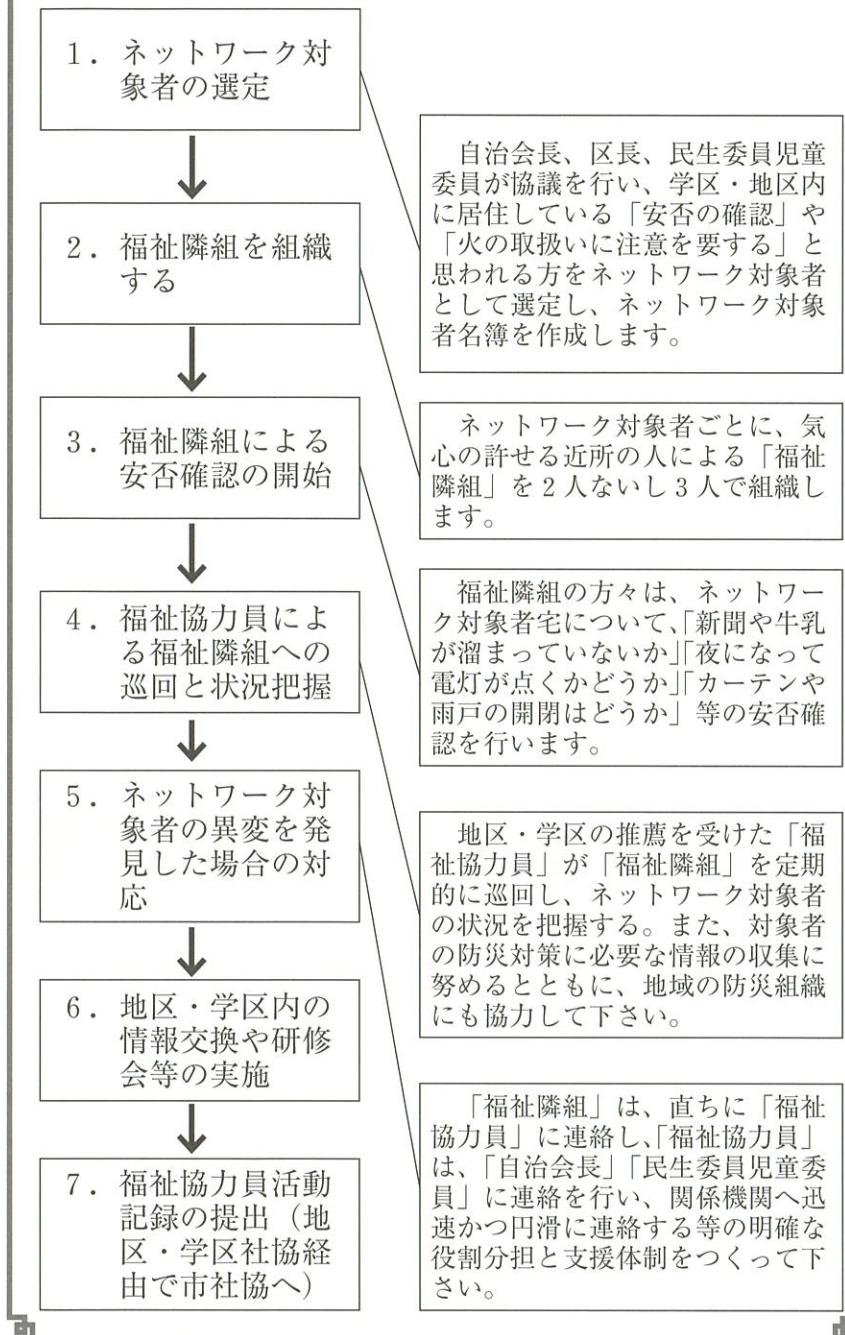


▲ふれあい(老人)
給食(一條地区)



▲学区社協代表者会議

【見守りネットワーク支援事業の手順(参考例)】



⑥ 介護予防講座は、昨年度の介護保険法の改正により、介護状態にならないよう文字どおり予防するための事業です。酒田市社協では酒田市の委託事業として学区・地区社協の理解と協力を得て、各学区・地区八回ずつ実施し、延べ八五〇八人の方が受講されました。

きました。

この他、学区・地区社協オリジナルの地域福祉活動も創意工夫で実施しています。

「新・草の根事業」を一層拡充するための一環として、酒田市社協では、「酒田市地域福祉活動計画」を策定いたしました。計画づくりは、みんなが「しあわせ」になるために地域住民が協力する計画です。その策定にあたっては、市民参加により、

多くの意見をまとめ策定しました。

社会福祉協議会は「市民総参加」による福祉団体です。「一人の百歩より百人の一步」という考え方を何よりも大切にしています。「住民にしかできないこと」がたくさんあります。多くの方の参加により、実りある活動となりますが、皆さまのご支援ご協力をお願いします。



民生委員ニーズ調査抜粋

(平成18年11月1日現在)

高齢者 一人暮らし	高齢者 夫婦世帯	その他 高齢者世帯
3,079人	2,900世帯	556世帯

◇高齢者一人暮らし：65歳以上 ◇高齢者夫婦世帯：65歳以上の夫婦だけの世帯

◇その他高齢者世帯：高齢者の兄弟姉妹等

▲ 酒田市地域福祉活動計画



▲講師：五十嵐淳二 氏

「地域福祉ニュース」

八幡四地区社協合同研修会

～地域のために共通意識をもって～

平成19年6月11日、八幡中央公民館において八幡地区の4地区社協合同主催による「見守りネットワーク支援事業研修会」が開催されました。

八幡地区でも年々高齢化が進み、一人暮らし高齢者などが増え、孤独死などを未然に防ぐ「見守りネットワーク支援事業」を実施しておる計画です。今年度中には全地区で実施する計画です。今回の研修会はこうしたなかで「地域住民が共通の意識をもつて事業に取り組んだ方がいい」という声があつたことから開催されました。

研修会当日は、「見守り支援を行うにあたつて注意すること」「緊急時の対応」「見守りだけでなくサロンやふれあい給食などの地域福祉活動で閉じこもりにさせない対策」等について、講師である東大町二丁目自治会長の五十嵐淳二氏から実践活動の経験談を交えて分かりやすく説明いただきました。

「ひとりの不幸も見逃さない」福祉のまちづくりに向けて大きな一歩を踏み出しました。

いい」という声があつたことから開催されました。

八幡地区では地域内ひとり暮らし高齢者等にふれあいと栄養のバランスの摂れた給食を提供する「ふれあい給食事業」をボランティアで実施しています。昨年度は約五千食を提供し、皆さんに喜ばれています。

市社協では調理ボランティアを対象に講習会を開催しました。本年度は七月十七日から八月七日までの三回、「ひらたタウンセミナー」を会場に学区・地区社協の代表「三十人」が参加し、栄養士の佐藤喜久先生より指導を受けました。皆さんの一層の活動が期待されます。



▲給食ボランティアの調理実習

◇給食に心をこめて

ふれあい給食指導者講習会も学区・地区では地域内のひとり暮らし高齢者等にふれあいと栄養のバランスの摂れた給食を提供する「ふれあい給食事業」をボランティアで実施しています。昨年度は約五千食を提供し、皆さんに喜ばれています。

市社協では調理ボランティアを対象に講習会を開催しました。本年度は七月十七日から八月七日までの三回、「ひらたタウンセミナー」を会場に学区・地区社協の代表「三十人」が参加し、栄養士の佐藤喜久先生より指導を受けました。皆さんの一層の活動が期待されます。

去る七月十三日、全員対象研修会が開かれ、内容も多様なニーズに応えるため、子どもから高齢者、災害対策、健康、地域福祉と多岐にわたりました。

身近な相談者である民生委員児童委員は頼れる存在です。

□地域の身近の相談者



▲酒田市民生委員児童委員全員対象研修会

○平成18年度社会福祉協議会決算報告

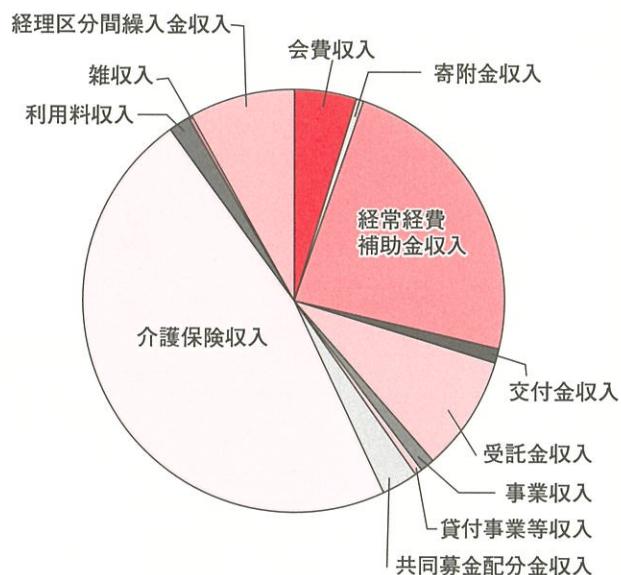
去る平成19年5月28日開催の理事会、評議員会で「平成18年度酒田市社会福祉協議会決算書」が承認されましたので報告いたします。

本会の事業実施にあたりましては、一般市民、行政機関、自治会、民生委員児童委員、福祉関係団体、企業、ボランティアの方々など多くの皆さまから多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

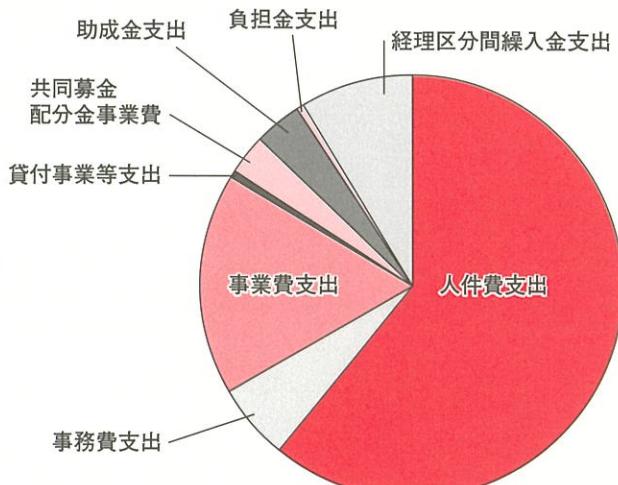
勘定科目		決算額
収入	会費収入	20,647,070
	寄附金収入	2,129,994
	経常経費補助金収入	99,337,473
	交付金収入	5,065,172
	受託金収入	37,289,086
	事業収入	5,335,214
	貸付事業等収入	1,866,427
	共同募金配分金収入	12,197,221
	介護保険収入	199,105,650
	利用料収入	7,247,470
	雑収入	1,079,944
	受取利息配当金収入	118,864
	経理区分間繰入金収入	33,504,914
	経常収入計(1)	424,924,499
支出	人件費支出	239,029,034
	事務費支出	22,890,625
	事業費支出	67,031,805
	貸付事業等支出	1,963,900
	共同募金配分金事業費	12,197,221
	助成金支出	13,786,200
	負担金支出	1,727,700
	経理区分間繰入金支出	33,504,914
	経常支出計(2)	392,131,399
	経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	32,793,100
施設による収支	施設整備等収入計(4)	0
	固定資産取得支出及び繰入支出	946,450
	施設整備等支出計(5)	946,450
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 946,450
財務活動による収支	積立預金取崩収入	1,362,898
	その他の収入	14,786,274
	財務収入計(7)	16,149,172
	積立預金積立支出	29,214,460
	その他の支出	9,684,401
	財務支出計(8)	38,898,861
	財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 22,749,689
	予備費(10)	0
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	9,096,961
	前期末支払資金残高(12)	70,488,420
	当期末支払資金残高(11)+(12)	79,585,381

(単位：円)

収入



支出



イベシト情報

**第十二回酒田市ボランティアフェスティバル
第十五回歳末たすけあいチャリティコンサート**

ボランティア活動や市民活動等を実践している人、関心のある人が集い、地域社会づくりのための交流の輪を広げるフェスティバルを開催いたします。

〔日時〕十月二十七日(土)午前九時

三十分から午後三時

(入場無料)

〔場所〕酒田市総合文化センター
〔内容〕式典、ボランティア活動

発表、体験・遊び・交流
コーナー、パネル展示、
チャリティーバザー、
チャリティーお茶席等

〔※〕なお、午後一時三十分から
み有料(五百円)になります。

〔問合せ〕市ボランティアセンター
まで(二二三)五七六四

歳末たすけあい色紙楽焼展

酒田市民の芸術作品創作者から、色紙・楽焼などの作品をご寄付いただき、愛好者からの入札による益金を、歳末たすけあい募金の激励金として配分する

「色紙・楽焼展」を開催します。
皆さまの温かいご協力を願い
します。

〔期間〕十二月七日(金)から十二月
十二日(水)まで

〔場所〕酒田市総合文化センター
一階モール

〔問合せ〕酒田市社会福祉協議会・
地域福祉課まで

(二二三)五七六五



▲歳末色紙樂焼展(文化センターモール)

酒田市社協では、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など、日常生活において判断能力に不安のある方々の福祉サービス利用援助や日常的金銭管理等を行う日常生活自立支援事業の「生活支援員」を募集しています。

〔対象〕ボランティア活動に関心と意欲があり、おおむね三十歳から65歳の普通自動車免許をお持ちの方。

〔活動時間〕一回おおむね一時間程度

〔手当〕一回一千三百円

〔申し込み〕酒田市社会福祉協議会
へ(二二三)五七六五

立ちどまつたまま、あれから三十五年余、動かぬピエロに徹しながら、いつの間にブルーシートをかぶつて変身も、つかの間、季節はとうに失くしながら、昨日は缶に花の片片と散る。去る七月二十六日から解体工事が始まって、大正三年製の機関車が消える。

遠くで汽笛を聞きながら、臨港線の踏切は人々を口マンの境地へひき入れる。まつわる蒸気機関車の憶いはつきないまま、舞台の幕は閉じる。〈機関士は生涯の職天高し〉という盟友のうたが残つて。

生活支援員の募集

編集委員長 吉村芳美

日和山からSL消えて
野生となり 保存機関車 鈑叩き

昭和四十七年五月十九日、機関車構内から、区長以下代表者の見送りをうけ、ディーゼル機関車に牽かれた、九六三二号は、臨港線から海洋センター脇の引込線に据えられる。十年あまり海風に曝され、昭和五十八年市制五十周年に、人目にふれる日和山公園やすらぎの塔前に鎮座する。

コラムふれあい

